



週間情報



No.2707

発行日 平成27年2月17日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 電話 03(3234)1321

消防本部の動き

行事

◆ 静岡市消防局緊急消防援助隊活動パネル展を開催

静岡市消防局（静岡）

静岡市消防局では、緊急消防援助隊創設の契機となった阪神・淡路大震災から20年が経過するにあたり、平成27年1月6日（火）から約2週間、市内3箇所の区役所と商業施設において「緊急消防援助隊活動パネル展」を開催しました。

緊急消防援助隊の創設経緯等の概要や登録車両、出動計画等について、写真を使用しながら緊急消防援助隊派遣活動を市民にPRするとともに、南海トラフ巨大地震に対する防災意識の高揚を図りました。

さらに、東京消防庁、神戸市消防局及び長野市消防局の協力を得て、阪神・淡路大震災当時の被災状況をはじめ、東日本大震災、伊豆大島土砂災害、御嶽山噴火災害の被害状況や活動状況の写真と映像を示すとともに、御嶽山噴火災害での噴石や火山灰、山頂での装備等を紹介しました。

見学者にアンケートの協力をいただき「静岡市から応援出動していることを知らなかった。過酷な状況での活動に感謝」等のお言葉をいただき、多大なご理解を得ることができました。

また「同じような広報活動を増やして欲しい。学校での講義等をお願いしたい。」等の言葉もあり、広報活動の有益性を実感することができました。



【緊急消防援助隊活動パネル展の様子】

◆ 入間市消防少年団が入間市消防出初め式に参加

埼玉西部消防局（埼玉）

埼玉西部消防局では、平成27年1月11日（日）、県営彩の森入間公園において、入間市消防出初め式を実施し、入間市消防少年団が参加しました。

当日は穏やかな晴天に恵まれ、新年最初の行事に新たな気持ちで望んだ少年団員37名は、消防職員及び消防団員とともに徒列分列行進に参加し、その勇姿を見学に訪れた多くの市民や来賓者に披露しました。その後実施された消防団員による「訓練展示」では真剣な眼差しで見学し、入間とび土木工業会による「新春はしご乗り」には大きな歓声をあげていました。

少年団員達は、昨年よりも火災の少ない年となるよう、今年も防火PR活動を頑張ります。



【徒列分列行進の様子】

訓練・演習

◆ 平成26年度警防技術指導会を実施

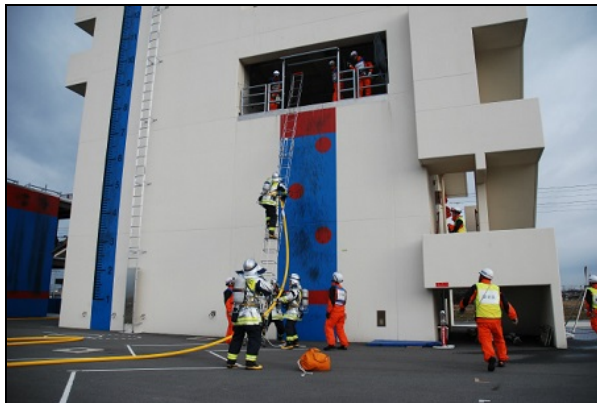
湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、平成26年12月15日（月）、17日（水）、25日（木）の3日間、平成26年度警防技術指導会を実施しました。

当消防局において初めての試みとなるこの訓練は、ペア活動時の先着隊・後着隊の連携及び木造建物火災における基本的な活動パターンの定着を図るとともに、活動を迅速かつ安全に行うことを目的として計画しました。

木造2階建て専用住宅の1階から出火、2階に逃げ遅れが1名いるとの想定で、消火や救助時間に基準タイムを設け、3日間で出動車両24台、96名の隊員が日頃の訓練成果を競いました。

今後もこのような訓練を通じて、より一層活動能力の向上及び連携の強化を図っていきます。



【平成26年度警防技術指導会を実施】

◆ 第61回文化財防火デーに伴う消防訓練を実施

泉州南消防組合泉州南広域消防本部（大阪）

泉州南消防組合泉州南広域消防本部では、第61回文化財防火デーの実施に併せ、管内（泉佐野市・泉南市・阪南市・熊取町・田尻町・岬町）の文化財防火に徹底を期するため、平成27年1月24日（土）、泉南市の長慶寺において泉南市消防団信達分団と合同で消防訓練を実施しました。

訓練は、長慶寺本殿から出火したとの想定で、当消防本部からはタンク車2台、ポンプ車3台、救助工作車1台、救急車1台及び指揮支援車1台の計8台25名が出場し、信達分団からはポンプ車1台（5名）が出場し、消火・救出・救助及び文化財の搬出等の一連の活動を実施しました。

また、「みんなで守ろう文化財」を合言葉に、多くの長慶寺関係者も参加し、通報及び初期消火等の訓練を行い、訓練終了後には「それぞれ大変貴重な経験になった。」との感想が寄せられました。



【文化財防火デーに伴う消防訓練を実施】

◆ 文化財防火デーに伴う消防訓練を実施

のしろやまもと 能代山本広域市町村圏組合消防本部（秋田）

能代山本広域市町村圏組合消防本部能代消防署では、平成27年1月26日（月）、旧料亭金勇で文化財防火デーに伴う消防訓練を実施しました。

昭和12年に建築された旧料亭金勇は、天然秋田杉の良さを十分に生かした建造物で、同様の再建築は不可能と言われており、平成10年に国の有形文化財に登録されました。昨年は囲碁基本因坊戦七番勝負第2局の会場となる等、木都能代の発信基地として各種イベント等で活用されています。

今回の訓練では、従業員による火事ぶれ（火災の周知）、119番通報、初期消火から始まり、消防隊による消火訓練、救助隊による逃げ遅れ者の救助訓練も行われました。

訓練を通じて、防火管理体制の強化、地域住民との協力体制の構築及び市民の文化財に対する防火意識の高揚を図りました。



【文化財防火デーに伴う消防訓練を実施】

◆ 文化財防火デー消防演習を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁石神井消防署では、平成27年1月26日（月）、第61回文化財防火デーに伴い、真言宗智山派西円山教学院において消防演習を実施しました。

教学院の本堂から出火し、延焼拡大して、1名が逃げ遅れるという想定のもと、住職が白煙を発見、職員により119番通報と初期消火後、消防隊により人命検索救助・消火活動を行いました。

近隣の保育園から約130人の園児達が見学し、消防団、町会及び災害時支援ボランティアと連携した本番さながらの訓練に、熱い視線を送っていました。締めくくりに本堂に向けて一斉放水を行い、その壮観な景色に子ども達の歓声が重なっていました。

教学院には「閻魔・十王像と檀拏幢^{だんだとう}」という指定有形文化財があり、実際の文化財施設での演習を通して、貴重な文化財の火災予防、また消防と地域の関わり合いを伝えることができました。



【文化財防災デー消防演習の様子】

研修等

◆ 消防職員健康管理講演会を開催

宝塚市消防本部では、平成27年1月21日（水）、消防職員健康管理講演会を開催しました。

講義テーマは、「知っておきたいたばこの話」で、当市健康相談室の猪熊陽子氏を講師に招き、消防職員としての健康管理、特にたばこに関する内容を中心に講演会を実施しました。

今回の講義では、たばこに含まれる有害物質がいかに人体に悪影響を及ぼすかを詳細に説明され、講義終了後に希望者は呼気CO（一酸化炭素）濃度測定を実施するなど、職員も納得するところが多く、有意義な講演会となりました。

宝塚市消防本部（兵庫）



【消防職員健康管理講演会の様子】

◆ 救急隊員の感染防止対策研修会を実施

隠岐広域連合消防本部では、平成27年1月27日（火）、隠岐広域連合立隠岐病院の感染管理認定看護師を講師に迎え、救急隊員の感染防止対策研修会を実施しました。

救急隊員は傷病者の血液や体液等により暴露するリスクが高いことから、手指衛生を基本とした標準予防策を中心に、感染防止対策に関する意識を高め、知識を習得することを目的としました。

参加した救急隊員は、感染症から自身だけでなく傷病者を守る重要性を理解し、標準予防策の知識を十分に身に付ける必要性を感じることができました。

隠岐広域連合消防本部（島根）



【感染防止対策研修会の様子】

◆ 阪神・淡路大震災20年に係る職員研修を開催

下関市消防局（山口）

下関市消防局では、平成27年1月27日（火）、阪神・淡路大震災発災から20年の節目にあたり、職員研修を開催しました。

今回の研修は、現在の緊急消防援助隊出動体制等に対する理解を深めるとともに、被災地で救助活動にあたった職員の経験や教訓等を若年層職員へ伝承し、当市消防局の体制強化を図ることを目的に行いました。

活動した職員らによるパネルディスカッションでは、先輩からの熱いメッセージを若年層職員に伝えることができ、大変意義のある研修となりました。



【山口県大隊長による教養の様子】



【パネルディスカッションの様子】

その他

◆ 高規格救急自動車配備に伴う運用開始式を実施

くにさき 国東市消防本部（大分）

国東市消防本部では、平成27年1月23日（金）、国東市消防署国見出張所において、高規格救急自動車配備に伴う運用開始式を行いました。

今回配備する高規格救急自動車は一般社団法人日本自動車工業会からの寄贈によるものです。日本自動車工業会は、消防庁の救急医療体制整備事業の充実化に協力することを目的に救急車の贈呈を実施しており、全国の消防本部における救急体制の設備拡充に大きく貢献されています。

今回の配備により、管内では全4台の救急車の内3台が特定医療行為のできる高規格救急車となり、救急救命士が市民に高度な救急サービスを提供できるようになりました。



【高規格救急自動車配備に伴う運用開始式の様子】

◆ 消防本部の住所変更等について

- 31633 三郷市消防本部（埼玉）
新住所 〒341-0038 三郷市中央5-45-4（下線部が変更箇所）
※ 理由 区画整理による地名変更のため
平成27年1月31日から運用開始
- 32110 佐久広域連合消防本部（長野）
新住所 〒385-0051 佐久市中込2947番地（下線部が変更箇所）
※ 理由 新住所に移転のため
平成27年2月2日から運用開始
- 73603 鳥取中部ふるさと広域連合消防局（鳥取）
新住所 〒682-0922 倉吉市福守町415番地2（下線部が変更箇所）
新電話番号 0858-29-5119
新FAX番号 0858-29-7750
※ 理由 新住所に移転のため
平成27年2月2日から運用開始

◆ FAX番号の変更について

- 32216 御殿場市・小山町広域行政組合消防本部（静岡）
新FAX番号 0550-83-8180
平成27年2月10日から運用開始

国等の動き

報道発表

◆ 消防団に関する大臣書簡（2月13日、消防庁）

消防団の充実を図るため、都道府県知事及び市区町村長に協力を依頼するため、総務大臣から書簡を発出しました。

- 総務大臣書簡の発出先
 - ・ 都道府県知事及び市区町村長
- 発出日
 - ・ 平成27年2月13日（金）
- 協力依頼内容の概略
 - ・ 女性の消防団への積極的な加入促進
 - ・ 大学生等の若い人材の確保
 - ・ 消防団協力事業所表示制度の導入
 - ・ 在勤者及び地方公務員の入団促進
- その他
 - ・ この書簡に加え、今後、経済団体に対しても、消防庁より総務大臣からの書簡を持参し、協力依頼をする予定です。（別添の参考（省略）を参照）
 - ・ 6月を目途に、消防団活動に特に協力していただいている事業所に対して、総務大臣感謝状を贈呈する予定です。
- 全文は、消防庁ホームページ
(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h27/02/270213_houdou_1.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】 国民保護・防災部地域防災室
担当：岡地課長補佐、山下事務官

情報提供

◆ 緩衝帯を有する接続部の評価方法 ～大規模防火対象物の防火安全性の視点に立って～

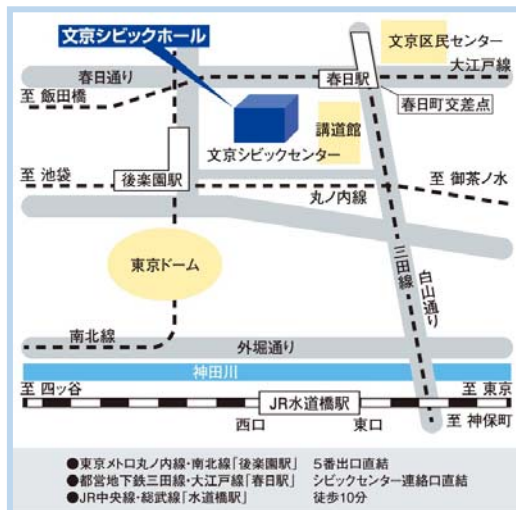
主催：一般財団法人日本消防設備安全センター

近年、大規模・複雑化した建築物や地下街等と一体となった建築物は、「渡り廊下」等とみなされる施工方法とは異なる接続により駅舎などの建築物と一体をなす事案が散見されます。

このような建築物においては、互いに火災の影響が及ぶことを防止する評価を受けた「緩衝帯を有する接続部」が設けられ、利用者の安全が確保され、迅速・的確な自衛消防活動等がなされることが期待されています。

本講演会は、この「緩衝帯を有する接続部」を消防、建築、設備等の見地を踏まえ、火災工学上の知見に基づく検討結果としての評価方法を提案するものです。

日 時	平成27年3月5日(木) 13:30~16:30
会 場	文京シビックホール 2F 小ホール (東京都文京区春日 1-16-21)
参加費	無 料
定 員	250名



内 容

- 「開会にあたって“安全センターの最近の取り組み”」
(一財) 日本消防設備安全センター 常務理事 木原正則
- 「緩衝帯に求められる一般的要件」
清水建設(株) 技術研究所 主任研究員 野竹宏彰
- 「地下通路型の緩衝帯の評価法」
(株) フジタ設計エンジニアリングセンタ
エグゼクティブコンサルタント 山田茂
- 「評価法を用いたケーススタディ」
大成建設(株) 技術センター 主任研究員 中濱慎司
- 「評価法の技術的解説」
(株) 大林組技術研究所 主任研究員 山口純一

後援：全国消防長会関東支部

(公財) 東京防災救急協会、(一社) 東京設備保守防災救急協会 (順不同)

協賛：(一社) 日本設備計事務所協会、(一社) 建築設備技術者協会 (順不同)

【申込方法】

「安全センター」又は「違反是正支援センター」のホームページ上から、「講演会の開催」のページにアクセスして申込みの手続きをしてください。

なお、定員に達した時点で受付を終了します。定員を超えた際は、お断りのメールを返信させていただきます。

また、講演会の実施等に関するお知らせは安全センターTwitter「@fesc_kikaku」から情報発信しております。

【ホームページアドレス】

<http://www.fesc.or.jp/ihanzesei/symposium/index.html>

【申込期間】

平成27年2月2日(月)から定員に達するまで。

◆ 「全国救急隊員シンポジウム」開催候補地（共同主催者）の募集について

一般財団法人救急振興財団

全国救急隊員シンポジウムの目的

全国救急隊員シンポジウム（以下「シンポジウム」という。）は、我が国の救急体制の一層の振興を図る一助として全国の救急隊員等を対象とした実務的観点からの研究発表及び意見交換の場を提供することにより、救急隊員等相互の交流と親睦を図るとともに、消防機関の行う救急業務の充実と発展に資することを目的とする。

全国救急隊員シンポジウムは、一般財団法人救急振興財団（以下「財団」という。）と開催地消防本部との共同主催で行っており、平成 26 年度は 2 日間で延べ約 7 0 1 3 人の救急隊員等の参加がありました。

この度、平成 29 年度の開催候補地（共同主催者）の消防本部を募集します。

なお、平成 27 年度は札幌市、平成 28 年度は神戸市での開催が決定しております。

1 応募資格

原則として、単独の消防本部又は、同一の都道府県内に属して隣接する複数の消防本部で構成された団体で、シンポジウムのスムーズな運営が実施可能な組織体制を確保できる団体とする。

2 募集要件

- 財団と共同主催であること。
- 原則として、1,000～2,000 人程度を収容できる主たる会場施設（500～900 人程度収容の 2 会場、200 人程度収容の 3～4 会場を含む）を確保できること。
ただし、上記要件を 1 施設で満たさない場合は、会場の分散化について財団と協議する。
- シンポジウムの開催に必要な経費のうち、会場の使用に係わる経費は、開催地の消防本部が負担し、その他の経費は財団が負担する。
- シンポジウム開催当日は、会場の使役として必要人員（例年 100 人程度）を 2 日間配置できること。
- シンポジウムの会場付近に 2,000 人程度を収容できる宿泊施設（複数可）を確保できること。
- シンポジウムの開催時期は、原則として 1 月ないし 2 月頃とする。
- シンポジウムの開催期間は、原則として 2 日間とする。

3 実施年度

平成 29 年度

4 募集期間

平成 27 年 3 月 1 日より 5 月 30 日まで

5 その他

- (1) 開催候補地については全国救急隊員シンポジウム運営委員会で決定します。
- (2) 詳細については、下記にご照会ください。

連絡先	一般財団法人救急振興財団
住所	東京都八王子市南大沢 4 丁目 6 番
電話	(代表) 042-675-9931
	(FAX) 042-675-9050
E-mail	sinpo@fasd.ne.jp
企画調査課	松本・石井

※ 消防庁各課室の直通電話番号は (<http://www.fdma.go.jp/neuter/about/tel.html>) に掲載されています。

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

週間情報への投稿は企画課へ！

TEL 03-3234-1321 FAX 03-3234-1847 E-mail : weekly@fcaj.gr.jp